令和３年度　放課後子ども総合プランコーディネーター等研修会（講座Ａ）　報告

○開催期日：令和3年11月17日（水）　オンライン形式で開催
○参加人数：122名（放課後子供教室関係者、放課後児童クラブ関係者、行政職員等）

＜オリエンテーション＞
テーマ：「新・放課後子ども総合プランについて」
講　師：愛知県教育委員会生涯学習課

「新・放課後子ども総合プラン」に基づいた本研修会のオリエンテーションとして、「放課後子供教室と放課後児童クラブの違い」を踏まえた上で両事業の関係者が互いに連携・協力し、放課後児童クラブに通う子供たちが、放課後子供教室が開催される時には放課後子供教室の活動に参加し、子供教室の活動終了後は、児童クラブに戻って過ごすことができる一体型や連携型の体制づくりが求められていることを説明しました。

＜講演＞
演題：「地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組みづくり～放課後子供教室・放課後児童クラブを例に～」
講師：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
専門調査委員　岡田　直人　氏

講義の前半では、放課後子供教室と放課後児童クラブの一体的な実施についての説明がされました。具体例として、放課後子供教室のコーディネーターが放課後児童クラブの運営責任者を兼ねて両事業の一体的な運営を図っている埼玉県川口市の事例の紹介がありました。この放課後子供教室では、町内会、公民館サークル、民生・児童委員等からなる「学校応援団」の参画を得て運営されているとのこと等、事例をとおして、多くの、幅広い層の地域住民、団体等が参画し、「緩やかなネットワーク」を形成する必要性が説明されました。そして、地域と学校がパートナーとして連携・協働して行うことが、地域全体で子供たちの学びや成長を支え、更に地域住民のつながりを深めることになり、「学校を核とした地域づくり」へとつながっていくと説明されました。

講義の後半では、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に関する説明がなされました。一体的推進のために重要なことは、コミュニティ・スクールで、子供たちの教育に関する当事者として、学校と地域が「目指す子供像」を「熟議」のうえ、共通の目標とすることの重要性についての話がありました。そして、この「目指す子供像」の実現に向けた、地域学校協働活動の重要性について説明されました。「社会教育の力により、地域の課題解決に寄与するものと信じている」という言葉に、岡田先生の強い信念を感じました。

＜参加者の声＞
- ○　自分の仕事に誇りをもっていいとの岡田先生の言葉にとても励まされた。自分の役割に、可能性と夢を感じ取れるようになった。
- ○　体系的な話が聞けて、自分の立場が分かった。立場がはっきりすると、その役割や目標が見えてくる。
- ○　「学校は地域のもの」という言葉が、学校にも地域にも一層浸透していけばよいと思うとともに、それを伝え進めるのが行政の仕事だと再認識できた。
- ○　まず目指す姿をイメージする。活動はそこから逆算して内容、人数を決める。目標と手段を間違えないという話は、とても具体的で実践しやすいと思った。
- ○　支援という貸し借りではなく、協働（立場の異なる人たちが、同じ目的のために対等な立場で共に働く）していけるよう、地域と学校が一緒に進めていく大切さが分かった。